

長男、マレーシアへ



タイで六月に高校を卒業した長男は、十月にマレーシアにある大学に進学するまでの四か月弱、日本にいました。YouTubeばかり見ているのが家の中にいると、イラっとしまして。私の圧のせいかな、家の手伝いはよくしてくれました。バイトがない日は、お風呂を洗うとか洗濯ものを取り込むとか、犬の散歩とか。さらに週2回くらいは夕飯作りも。レシピを検索して献立を考え、材料の買い物からしてくれました。主菜、副菜、みそ汁、ごはん。たいしたものですよ。そこそこいい話なんです、ここまで。

ある日、買い忘れた材料があったよううで、長男が中一の次男におつかいを頼みました。しかし、お金を渡された次男はコンビニに直行。ファミチキとコーラで、ひとりウキウキおやつタイム。それを仕事帰りに通りかかった私に見つかって。ほんと、面白いくらいにワルいやつです。

翌朝、大学のある町へ移動。寮に着いても共用エリアまでしか私は入れません。寮の敷地内にはコンビニがあつて、それこそファミチキもおにぎりも売っています。ほかにスタバあり、軽食のレストランあり。コインランドリーもチェック。

自室に荷物を置きに行っていた長男が戻ってきました。一つのLDKを囲むようにベッドルームが数部屋ある造りで、同じLDKを使う人はマレーシア人や中国人、モリシヤス人などだったそう。二人部屋ベッドルームの相方さんは短期留学の日本人大学院生。少しだけお兄さんの視点も刺激になってくれるといいなあ。なんとかかなりそうだな、という環境を確認できて、私もひと安心。

大学やスーパーマーケットにも二人で行ってみました。私ができることはもうなさそう。帰ります。長男とハグして、別れました。

早めに空港に行ったのに、飛行機が

がんばれ十八歳!

荷物の準備もぎりぎりまでせず、運転免許が取れたのも出発の三日前というのんきな長男も、十月初旬にいいよ旅立ち。大学も寮も下見せず受験してしまったので、私が荷物運びを兼ねて送っていくことにしました。「タイから近いんだから、受験する前に下見に行った方がいい」と何度も言っていたのですよ。でも長男は面倒がって行きませんでした。「ブラジルの学校も、タイの学校も、下見なんてしてない」という理由です。たしかに。そんな人生を彼に送らせてきたのでした。

さて、長男と二人、マレーシアに到着。初日は首都クアラルンプールを散策して、人や食べ物や物価や治安などの空気に慣れました。タイのバンコクよりカオス感がなく、整然とした都市です。ローカル食堂でも店員さんは流暢な英語を話します。

二時間遅れ。あまりに長い待ち時間。急に寂しくなってきました。長男とはもう一緒に暮らすことはないんだろ。同様に子供を今年送り出した友達にLINEしてみると、「私は大泣きした」という返事。そうか、やっぱり母はこんな気持ちか。

その後一週間は長男から頻繁に質問がきました。「グラノーラって日本でいくら? 豚肉っていくら?」自炊しようとして頑張っている模様。今までも日本で食材の買い物をしてきたのに、手持ちのお金が目減りしていくと、急に現実味を帯びたようです。それもよい経験! うらやましいなあ、これから始まるって。



文・写真
小宮華寿子
二男一女の母で
編集者。「ブラジルの
ジュエリーと世界の手仕事ワーク
ショップの店「メルカジーニョ」
(<https://mercadinho.net>)代表。



イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。「ゆ
らゆらゆるる北欧風手作りモビール」
(ネコ・パブリッシング)を監修。